

令和 8 年度税制改正の大綱

〔 令和 7 年 12 月 26 日
閣 議 決 定 〕

物価高への対応の観点から、物価上昇に連動して基礎控除等を引き上げる仕組みを創設するほか、就業調整に対応するとともに、中低所得者に配慮しつつ、所得税の課税最低限を 178 万円まで特例的に先取りして引き上げる。「強い経済」の実現に向けた対応として、大胆な設備投資の促進に向けた税制措置を創設するほか、租税特別措置等の適正化の観点から、賃上げ促進税制の見直しや研究開発税制の強化等を行う。税負担の公平性を確保する観点から、極めて高い水準の所得に対する負担の適正化措置の見直し等を行う。このほか、自動車関係諸税について、自動車税等の環境性能割の廃止や軽油引取税の当分の間税率の廃止等を行う。また、国際観光旅客税の税率の引上げや防衛特別所得税（仮称）の創設等を行う。具体的には、次のとおり税制改正を行うものとする。

〈国民健康保険税〉

P34より抜粋

- (6) 国民健康保険税の基礎課税額等に係る課税限度額について、次のとおりとする。
 - ① 基礎課税額に係る課税限度額を 67 万円（現行：66 万円）に引き上げる。
 - ② 子ども・子育て支援納付金課税額に係る課税限度額について、令和 8 年度予算措置を前提に、所要の措置を講ずる。
- (7) 国民健康保険税の減額の対象となる所得の基準について、次のとおりとする。
 - ① 5 割軽減の対象となる世帯の軽減判定所得の算定において被保険者等の数に乘すべき金額を 31 万円（現行：30.5 万円）に引き上げる。
 - ② 2 割軽減の対象となる世帯の軽減判定所得の算定において被保険者等の数に乘すべき金額を 57 万円（現行：56 万円）に引き上げる。